

しらいし いちろう
白石 一郎

* 昭和 6年11月 9日 釜山生まれ

* 平成16年 9月20日 没(72歳)



○ 略歴

昭和20年 終戦で引き揚げの後、柳川に住む
(14歳)

昭和21年 佐世保に転居
(15歳)

昭和29年 大学卒業後、佐世保の父親の経理事務所で働く
(23歳)

昭和32年 「文学は東京在住で」の風潮の中、福岡で作家活動に専念
(26歳)

昭和62年 8回目の直木賞候補ノミネートの末、「海狼伝」で直木賞受賞
(56歳)

その後、九州を舞台にした歴史小説や海洋小説を数多く発表、九州芸術祭文学賞の中央選考委員も長年務めた。

○ 主な受賞歴

昭和32年 第10回講談倶楽部賞 ざっぴょう
「雑兵」

昭和62年 第97回直木賞 かいろうでん
「海狼伝」

平成4年 第5回柴田錬三郎賞 「戦鬼たちの海」

平成7年 第54回西日本文化賞

平成11年 第33回吉川英治文学賞 「怒濤のごとく」

○ その他の代表作

幻島記(昭51)、天翔ける女(昭54)、サムライの海(昭55)
島原大変(昭60)、海王伝(平2)